

林 聖子

2019年末から世界で感染が始まった新型コロナウイルス感染症はいまだ収束せず、現在は変異株の一つであるオミクロン株感染者が急増中で、未曾有の厳しい状況が続行している。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、この2年間、世界中で人の移動等が制限され、グローバルな社会経済に大きな影響が生じている。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は大学院教育へも影響が及び、2020年度に続き、2021年度も感染状況によりオンライン授業のみ、又は対面授業とオンライン授業併用のハイブリッド授業という授業形態をとってきた。いまだ、日本へ入国できていない学生もいる。当研究科開設以来14年間実施してきた約2週間にわたる中国現地研修は、2020年度に続き2021年度も中止となり、代替として、アジア・中国ビジネスの経営や実務に精通された上海・香港・バンコク・東京在勤の講師陣によるオンラインでのトップマネジメント特別講義を開講し、アジアの多様なビジネス等の現状を学生は学び、考える機会となった。

新型コロナウイルス感染拡大は大きなターニングポイントと考えられ、リモートワークの浸透等働き方やライフスタイルが変化し、人々の価値観も変わってきている。ポストコロナにおけるグローバルビジネスやアジアビジネスの変容を推察しながら、当研究科ではビジネススクールに学ぶ学生が、刻一刻と変化する社会への柔軟な対応力、予測困難な未来への立ち向かう力、日本及びアジア・中国のビジネス社会への貢献力等を醸成する教育に取り組んでいるところである。

このたび、アジア・国際経営戦略研究論集第15号を発行の運びとなった。当研究科博士前期課程修了生1名からの投稿論文と、2020年度博士前期課程修了学生の修士学位論文2件を収録している。

投稿論文1件は、巻末の規定に則り、研究科委員により審査された論文であり、修了生からの初めての投稿である。張学鋭氏による「農村活性化戦略における経済作物産業のダイヤモンドモデル競争力の分析——中国陝西省のコンニャ

ク産業の現地調査に基づく——」は、中華人民共和国陝西省のコンニャク産業を陝西省現地調査に基づき、マイケル・ポーターの競争戦略理論のダイヤモンドモデルにより探求した論考である。

修士学位論文2件のうち、1件目は蛸澤剛氏（2021年3月修了）の「海外進出における外国人技能実習生の戦略的活用——ベトナム進出を例として——」である。2件目はLIU XIAO氏による「研究開発型企業におけるイノベーション創出に関する研究——外部連携を中心に——」である。本号に掲載したこれらの修士学位論文については、本号発行の前年度（2020年度）に修了した修士学生が執筆した論文のうち、アジア・国際経営戦略研究科研究科委員会において優秀であると評価された論考である。

コロナ禍で制限や制約の多い中、本研究論集がアジア・国際経営戦略研究科在籍学生及び修了生の執筆論文を活発に投稿できるジャーナルとして、彼らの探究心向上や研究力向上等につながり、ビジネススクールで学ぶ学生やビジネスの現場で活躍中の修了生にとって、研究の一助となれば幸甚である。

以上